

# ～コンプライアンス重視の経営!事例から学ぶ法的トラブル対応～ 企業法務の基礎知識と リスクマネジメント講座

## 研修のねらい

事業活動を行っていく上では、企業の存続に関わる予期しない法的トラブルが生じることがあります。また、インターネットやSNSの発達により企業の不祥事が一層注目されるようになり、コンプライアンスを重視した経営のあり方が改めて求められています。今や、トラブルは起きてから対応するものではなく、未然に防ぐための仕組みや体制を構築しておくことが重要です。

この研修では、中小企業が直面しやすい法的トラブルを未然に防ぐための企業法務の基礎知識や考え方を習得するとともに、多様で複雑なリスクに対応するリスクマネジメントのあり方について学びます。

## 研修のポイント

- ☑ 経営者や経営幹部が知っておくべき企業法務の基礎知識を学びます。
- ☑ さまざまな事例を通して、経営リスクの対処法を学びます。
- ☑ 企業経営に必要な「法的なものの見方や考え方」を身につけます。

## 研修期間

2026年  
6/2<sup>火</sup>～6/3<sup>水</sup>  
(2日間、12時間)

## 対象者

### 経営者・経営幹部

- ・ 企業法務の基礎知識を学びたい方
- ・ 法的思考センスを養いたい方
- ・ 自社のリスクマネジメントを強化したい方

定員 20名

受講料 22,000円(税込)

## 会場

### 中小企業大学校 関西校

大阪市中央区安土町2-3-13  
大阪国際ビルディング

月日	時間	科目	内容
6/2 <sup>火</sup>	9:30-9:40	事務連絡	
	9:40-11:10	中小企業を取り巻く法的環境と最近の動向	社会・経済環境の変化も踏まえ、企業法務の意義と役割、コンプライアンスの重要性について理解します。 ・ 企業法務の意義と役割 ・ 急激に変化する企業環境にどう対応するか ・ 今、なぜ、コンプライアンスか
	11:10-12:40 13:40-16:40	企業法務の基礎知識とリスクマネジメントの考え方	企業法務の基礎知識と留意点について、中小企業が直面しやすいトラブル事例やケーススタディを交えて学びます。また、積極的にリスクに向き合い、コントロールするためのリスクマネジメントの考え方について理解します。 ・ ビジネスパーソンに求められる「法務力」と視座 ・ 企業経営におけるリスクマネジメントの考え方 ・ 知っておきたい会社運営の基礎(取締役会、株主総会等の会社の機関運営) ・ 企業法務の基礎知識と留意点(契約、債権管理・回収、情報管理、労務管理、クレーム・紛争処理・弁護士との付き合い方など) ・ 最新の法改正 取適法(下請法)、カスハラ防止法など
6/3 <sup>水</sup>	9:30-12:30 13:30-14:30		
	14:30-16:30	リスクマネジメントの実践に向けて	これまで学んだ内容を実践していくために、自社の法務リスクを洗い出し、今後の予防策立案や運用に向けた検討を行います。 ・ 自社の法務リスクの洗い出し ・ 予防策と体制構築、運用に向けた検討
	16:30-16:40	修了証書交付	

※事務連絡等を含んだ時間：12時間20分  
※カリキュラムは都合により変更する場合があります。予めご了承ください。

## 講師紹介(敬称略)



アイマン総合法律事務所  
弁護士

### 井上 圭吾 (いのうえ けいご)

1980年京都大学法学部卒。1984年弁護士登録。大阪弁護士会副会長、株式会社グンゼ社社外監査役、株式会社近鉄百貨店社外監査役、国土交通省近畿地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会委員長、奈良県監査委員などを歴任し、企業法務の実務指導、各種研修講師として幅広く活動中。最新の訴訟事例にも明るく、講義は明快で好評を博している。主な著書として、「会社法務の実務が分かる辞典」「遺言と相続対策」「事例にみる遺言の効力」「Q&Aスポーツの法律問題(第3版)」「いずれも共著」、「地方公共団体の第三者委員会」(「法の支配」での座談会)などがある。



アイマン総合法律事務所  
弁護士

### 石川 慧 (いしかわ けい)

2015年京都大学法科大学院修了。2016年弁護士登録。民間総合調停センター運営委員、大阪弁護士協同組合理事、民事訴訟法の運用に関する協議会委員等に就任している。企業活動に伴う法的課題への助言や紛争対応、株主総会運営や契約実務など、企業法務全般を幅広くサポートしている。金融法務、不動産関連法務についても日常的に取り扱うほか、ハラスメントや人権課題に関する企業向け研修・講演も継続的に行っている。主な著書として「弁護士の顔が見える 中小企業法律相談ガイド」「改正民事執行法(令和2年施行)の解説と書式」(いずれも共著)がある。